

日本地衣学会 No.186

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次

会務報告	745
第45回青空地衣教室（銚子市海鹿島海岸，2025年5月18日）報告 ／坂田 歩美	745
第45回青空地衣教室（銚子市海鹿島海岸，2025年5月18日）で 観察された地衣類／坂田 歩美, 原田 浩	748

会務報告 *Reports of the JSL Activities*

第 45 回青空地衣教室（銚子市海鹿島海岸，2025 年 5 月 18 日）報告

Report of the 45th Outdoor School on Lichens at Ashika-jima Coast, Choshi-shi, Chiba-ken, Central Japan (18 May 2025) / by SAKATA Ayumi

>>>>>>> 坂田 歩美：地域活性化委員会 関東，千葉県立中央博物館

第 45 回青空地衣教室を以下の通り開催しましたので報告します。

* * *

日時：2025 年 5 月 18 日（日）10 時 30 分～14 時
00 分

場所：銚子市海鹿島（あしかじま）海岸

講師：原田 浩 先生（千葉県立中央博物館）

参加人数：8 名（講師を含む）

* * *

開催地の銚子市は千葉県の北東端に位置し，東に突き出た小さな半島となっています。北側は利根川に接し（対岸は茨城県神栖市），市の東側と南側は太平洋

に面しています。海鹿島海岸は銚子市の東側の太平洋に面した海岸で，干潮になるとたくさんの岩が現われる岩石海岸となっています。かつて沖合の岩場にアシカやトドなどが生息していたことにちなんで，海鹿島海岸と名付けられたとされています。観察会は海水浴場大プール跡地脇の駐車場に集合し，海水浴場大プール跡地周辺から小川芋銭（おがわうせん）の句碑のある岩場（標高 15m ほど）と海の間の潮上帯の岩場で観察をし，昼食をはさんで，午後は海岸の潮間帯と小川芋銭の句碑周辺でも観察を行いました（図 1）。参加者は講師を含め 8 名，そのうち非学会員は 5 名でした。開催が危ぶまれるほど風が強かったことを除くと，薄

曇りだったため日差しが弱く、気温も暑すぎず寒すぎず絶好の観察日和でした。

ほとんどの参加者は地衣類の観察会に参加したことがある方々だったので、青空地衣教室の慣例となっている講師の原田先生からの簡単な地衣類の解説はありませんでした。海岸の地衣類は海面からの高さに応じて帯状構造ができるとされているのですが、ここも含めて日本では明瞭な帯状構造が現れにくいことを説明して頂きました。シロイソダイダイゴケと広義ダイダイゴケ属の一種から観察が始まりました。シロイソダイダイゴケは海岸の高い場所に位置する橙色帯を代表する地衣類です(図 2A)。続いて、灰色帯に生育するヒメコブトリハダゴケ、チャシブゴケ属の一種、スミイボゴケ属の一種、ハウネンゴケ属の一種、*Lecidella* sp.を観察しました。これらの観察と並行して、桃褐色帯に生育するイソクチナワゴケ、ハウネンゴケ属の一種、キゴウゴケ属の一種も観察しました。桃褐色帯に生育するこれらの地衣類は半日陰を好み、灰色帯や橙

色帯の岩の陰になっている場所にもよく見られます。

少し離れた場所の概ね垂直になっている岩の上でキッコウアナイボゴケやアナイボゴケ属の一種を観察しました。ここでは原田先生からキッコウアナイボゴケの同定のポイントを教えて頂きました。本種は地衣体が厚くて、著しく亀甲状に割れているのが特徴だそうです(図 2B)。

次いで、突き出した岩の上で本観察会では数少ない葉状地衣と樹状地衣を観察しました。葉状地衣のムカデコゴケは街路樹の上でいつも見ているものより明らかに地衣体が大きく別種のように見えてましたが、粉芽塊を観察するとよく見るいつものムカデコゴケの粉芽塊と同じでした。樹状地衣のハマカラタチゴケは小さな個体が 1 つだけ確認できました。本種は千葉県の実験地帯に重要保護生物とされていることから、消失しないことを願うばかりです。

午後は潮が引く間まで、灰色帯などに出現するビスケットゴケ属の一種、ハマイボゴケ(ここがタイプ産



図 1. 観察地。

A, 図中の●は海鹿島海岸のある位置を示す。B, 観察ルート(黄色の太い線。矢印は移動方向を示す)。

[A, 地理院地図の白地図に県名等を追記。B, 地理院地図の写真地図に観察ルート等を追記。]

地とのこと）、ゴマダラウシオイボゴケ（黒色帯に出現するが、このように日陰で水が流れてくる場所にも見られる）を観察し、桃褐色帯のヘリプトゴケを観察しました。

潮が引いてからはいよいよ潮間帯に生育する地衣類のイソシズミゴケとウシオイボゴケの観察です。地衣体が緑色なのがウシオイボゴケで褐色なのがイソシズミゴケです（図2C）。今回潮間帯に生育する地衣類は2種だけでしたが、たっぷり1時間程度観察しました（図3）。更に、潮間帯ではフクロフノリ、アメフラシ、海草、ワカメ、ダイダイイソカイメン、ウメボシイソギンチャクなど地衣類以外の生物も観察しました。

海岸以外の場所で開催される地衣類の観察会では他の生物を観察することはほとんどありませんが、海岸で観察会をするとついでに観察することがよくあります。今回もついつい、他の生物も観察してしまいました。

最後に、小川芋銭の句碑が彫られている岩周辺で観察を行いました。イワニクイボゴケ、スミイボゴケ属の一種、ハマスミイボゴケかもしれない地衣類、*Lecidella enteroleucella* かもしれない地衣類、シアノバクテリアと共生するモツレノリかもしれない地衣類が見られました。句碑が彫られた北向きの垂直面は、桃褐色帯のヘリプトゴケによって紫褐色に広く覆われていました。その下の方の所々にある桃色の小さな地

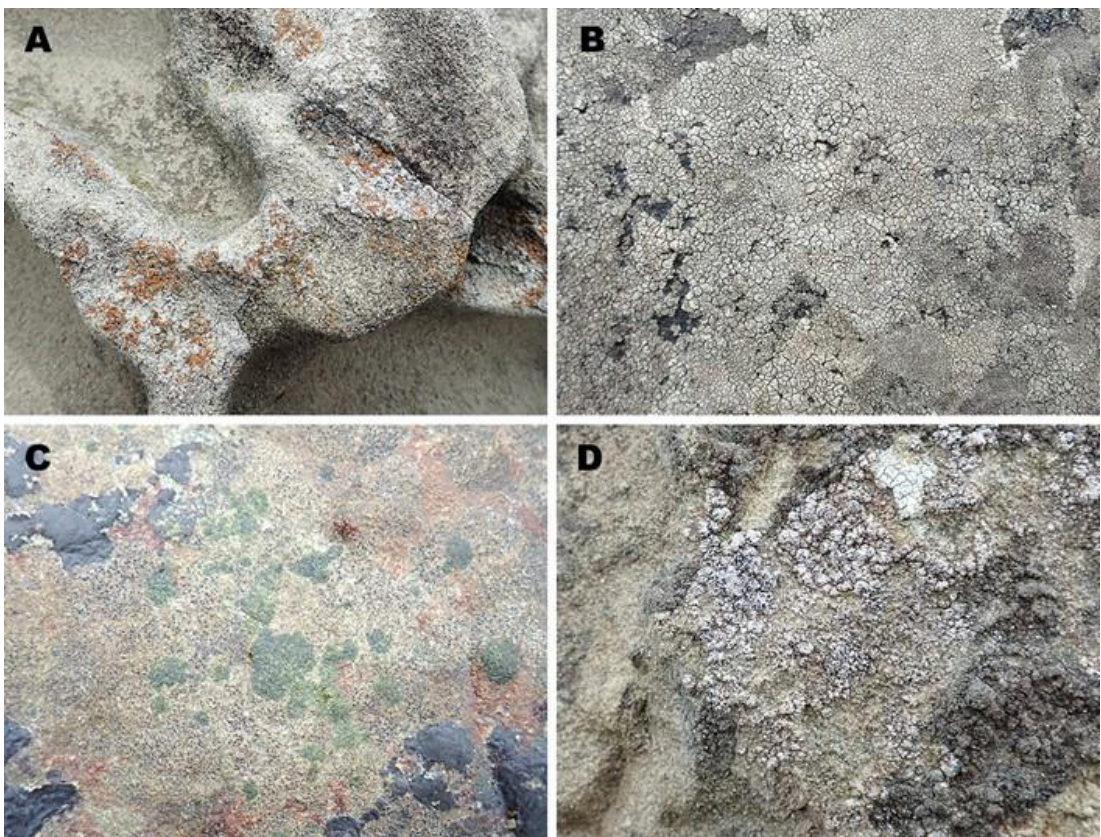


図2. A, シロイソダイダイゴケ. B, 地衣体が亀甲状に割れているキッコウアナイボゴケ. C, 地衣体が緑色のウシオイボゴケと褐色のイソシズミゴケ. D, 観察地がタイプ産地のアシカゴケ.

衣体は、海鹿島海岸をタイプ産地とするアシカゴケで
す(図 2D)。地名が「あしか」島であることと、子器
盤の形がアシカみたいになることがあるため、このよ
うな和名が付けられたと原田先生から解説がありまし
た。子器盤の形について参加者によっては最初納得し
ていないようでしたが、そのうち確かにアシカだとの

声も聞かれるようになりました。

最後は、小川芋銭の句碑が彫られている岩の上で眺
望を楽しんだ後、解散しました。

参加して頂いた皆さまと原田先生に深くお礼申し上
げます。



図 3. 潮間帯の地衣類を観察。

第 45 回青空地衣教室（銚子市海鹿島海岸，2025 年 5 月 18 日）で観察された地衣類

Lichens Observed during the 45th Outdoor School on Lichens (Ashika-jima Coast, Choshi-shi, Chiba, 18 May 2025) / by SAKATA Ayumi and HARADA Hiroshi

>>>>>>> 坂田 歩美：地域活性化委員会 関東、千葉県立中央博物館
原田 浩：千葉県立中央博物館

第 45 回青空地衣教室にて観察された地衣類のリス
トを以下に示す。

場所：千葉県銚子市，海鹿島海岸
観察日：2025 年 5 月 18 日

* * *

観察された地衣類

このリストでは、「樹状」、「葉状」、「痂状」の 3 群に分け、学名のアルファベット順に配列した。

<樹状地衣>

Ramalina siliquosa (Huds.) A.L.Sm. ハマカラタ
チゴケ (ごくわすか)

<葉状地衣>

Dirinaria applanata (Fée) D.D.Awasthi コフ
キチリナリア
Physciella melanchra (Hue) Essl. ムカデコゴケ

<痂状地衣>

Acarospora sp. ホウネンゴケ属の一種
Buellia yoshimurae A.Higashi et al.? ハマスミ
イボゴケ?
Buellia sp. スミイボゴケ属の一種
Caloplaca s. lat. sp. 広義ダイダイゴケ属の一種
Collemopsidium halodytes (Nyl.) Grube &
B.D.Ryan イソシズミゴケ
Diploschistes actinostomus (Pers. ex Ach.)
Zahlbr. キッコウゴケ
Enterographa leucolyta (Nyl.) Redinger イソク
チナワゴケ
Graphidastra japonica A.Sakata & H.Harada
アシカゴケ
Lecanora sp. チャシブゴケ属の一種
Lecidella enteroleucella (Nyl.) Hertel? レキデ
ラ エンテロレウケラ? (本属の 2 種が混じ
っている可能性がある)
Ochrolechia parellula (Müll.Arg.) Zahlbr. イワ
ニクイボゴケ
Opegrapha sp. キゴウゴケ属の一種

Pertusaria subobductans Nyl. ヒメコブトリハ

ダゴケ

Pyrenopsis conturbatula Nyl.? モツレノリ?

Rinodina sp. ビスケットゴケ属の一種

Roccellina niponica (Nyl.) Tehler ヘリブトゴケ

Yoshimuria spodiopla (Nyl.) S.Y.Kondr. et al.
シロイソダイダイゴケ

Verrucaria ditmarsica Erichsen ゴマダラウシ
オイボゴケ

Verrucaria fuscella (Turner) Winch キッコウ
アナイボゴケ

Verrucaria halizoa Leight. ウシオイボゴケ

Verrucaria marinomuralis H.Harada ハマイボ
ゴケ

Verrucaria sp. アナイボゴケ属の一種

◆原稿募集

本誌は、会員からの原稿を随時募集しています。地衣類にまつわるエピソード、想い出、あるいは地衣類に関係する写真とタイトル、簡単な説明文だけでも受け付けます。電子メールにて次のアドレス宛に投稿御願います：
bandomakoto@aa6.mopera.ne.jp（坂東 誠）

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外、図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体からの許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会。

Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619.

E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.

Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC).

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052

Japan. Tel: 81-3-3475-5618. Fax: 81-3-3475-5619.

E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.

Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 186, pp. 745 - 750: eds. Bando M., Kawasaki E., Tanaka K., Ueda N., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 20 Jun. 2025.

日本地衣学会ニュースレター186号

発行日：2025年6月20日

編集：坂東誠・河崎衣美・田中慶太・上田菜央

発行者・発行所：日本地衣学会

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2

千葉県立中央博物館内

©2025日本地衣学会 (© 2025 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。